

アピール①（春闘関係）

2021 春季生活闘争 政策制度・要求実現総決起集会 アピール（案）

われわれは本集会において、「誰もが希望を持てる社会を実現！安心・安全に働ける環境整備と『底上げ』『底支え』『格差是正』で」というスローガンのもと、2021 春季生活闘争を最後まで粘り強く闘い抜く決意を改めて確認した。

現在、すべての組合は、それぞれ置かれた状況が大きく異なる中で、自社だけでなく同じ産業で働く仲間や産業の未来をかけ、ともに闘う仲間の交渉を支えに、掲げた要求の実現に向けて懸命に交渉を追い上げている。

コロナ禍は今なお収束が見通せず、私たち労働者の雇用と生活への不安は高まるばかりである。今、必要なのは、雇用のセーフティネットを強化する中で、未来への基盤となる、分配構造の転換につながり得る賃上げを実現し、誰もが安心・安全にらせる社会を実現していくことの重要性を社会全体が認識することである。

2021 春季生活闘争はいよいよ決戦の時を迎える。

今次闘争では日本の労使の真価が問われている。社会の閉塞感を打破するためにも、労使は答えを出すときである。

すべての労働者への「人への投資」こそが、職場の、企業の、そして日本の未来を創る。この断固たる決意をもって、組織の総力を結集し、最後の最後まで、ともに闘おう！

2021 年 3 月 6 日

連合兵庫・神戸地協合同

「2021 春季生活闘争/政策制度・要求実現総決起集会」

政策・制度の実現に向けたアピール(案)～

連合の政策・制度の実現は、春季生活闘争における労働条件の改善とともに、働く者の「総合生活改善」に向けた運動の両輪をなすものである。私たちは、すべての働く者の先頭に立って、「持続可能性」と「包摂」を基底に置いた『働くことを軸とする安心社会』に向けた政策・制度の実現に全力を挙げなければならない。

新型コロナウイルス感染症は、社会経済に大きな影響を及ぼし、その影響はより立場の弱い人に集中し、格差問題の深刻さとともに社会的なセーフティネットの不十分さなど、日本の抱える構造課題に加え、社会の脆弱性を露呈させている。この危機を克服し、将来に希望の持てる持続可能な社会の実現をめざさなければならない。

今通常国会で連合は、コロナ禍における雇用・生活対策をはじめ、雇用の安定と質の向上、社会的セーフティネットの強化による将来不安の解消など、誰一人取り残されることのない社会、働く者・生活者の雇用と生活を守り、多様性に根ざした持続可能で包摂的な社会の実現に向けて重点法案を設定し、政府・政党や各級議員への働きかけを進めている。

また、連合が目指す政策・制度の実現に向けた政策課題について「連合アクション」などを通じた世論喚起など、構成組織・地域協議会が一体となって組織内はもとより広く社会に発信していかななければならない。

今年は、兵庫県知事選挙をはじめ各級地方自治体選挙が執行される。ポストコロナ社会を見据え、地域社会・経済の持続性と活性化に向けた勤労者・生活者の立場を代弁する代表者を地方議会に送り出すとともに地方行政のトップリーダーを選ぶ選挙となる。

加えて、第49回衆議院選挙は、日本の抱える構造的課題とコロナ禍で明らかとなった社会の脆弱性を克服し、すべての人の命とくらしを守り、将来に希望の持てる持続可能な社会の実現のために日本の将来ビジョンを示すことが争点と言える選挙となる。

各級選挙において、連合兵庫が推薦・支持する候補者全員の当選を果たすために、連合兵庫の構成組織・地域協議会に集う単組・支部の組合員一人ひとりが、組織の全総力をあげて闘い抜くことを本集会においてアピールする。

2021年3月6日
連合兵庫・神戸地協合同
「2021 春季生活闘争/政策制度・要求実現総決起集会」

3. 8国際女性デー アピール (案)

今から164年前の1857年にニューヨークの被服工場で多くの女性たちが亡くなった火災事故をきっかけとして、3月8日に低賃金・長時間労働への抗議行動が実施されたことが3.8国際女性デーの起源とされています。

その後、3月8日は「女性の政治的自由と平等のために行動する記念日」と位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳・人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、今日も、世界各国で様々な行動が展開されています。

連合は1996年から国際女性デーに関する行動を春季生活闘争の中に位置づけ、全国で統一行動を展開しています。

本年の全国統一行動では、“誰もが「自分らしく」輝ける、多様性のある男女平等参画社会を実現しよう！”をテーマに設定しました。

折しも、先般のJOC評議員会において、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗前会長の女性蔑視発言は、断じて許すことはできず、国内外から日本のジェンダー平等に対する姿勢があらためて問われています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、失業者の増加や、育児・家事などの無償労働の負担増、深刻化するドメスティック・バイオレンス(DV)など、影響はとりわけ女性の側に大きく出ています。社会に閉塞感とともに浮き彫りになった男女間の様々な格差が、今後さらに拡大する懸念もあります。

世界経済フォーラムが2019年12月に発表した国際的な男女間格差を示すジェンダー・ギャップ指数2020は、日本は153カ国中121位で、先進国で最下位となっています。

政府が2020年12月に策定した「第5次男女共同参画基本計画」では、各分野での女性参画の拡大や、様々な課題で女性の視点を取り入れることは謳われたものの、「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という、いわゆる「202030」は断念され、次の目標は曖昧な記載にとどまりました。

世界標準「203050」に遅れをとっている日本の現状を直視し、私たちひとり一人が意識を持って、ジェンダー平等社会を実現していかなければなりません。

私たち労働組合も、組合活動における女性参画の促進と、雇用における男女平等、均等待遇の実現、固定的性別役割分担意識の払拭に、より一層取り組む必要があります。連合は、2021春季生活闘争を通じて、男女別の賃金実態の把握と格差の是正、あらゆる暴力やハラスメントの根絶、差別の禁止に取り組めます。

私たちは、本集會に集まった一人ひとりの行動で、すべての人たちが性別にかかわらず、人権が保障され、平等に、安心して働くことができる社会をめざします。

2021年3月6日

連合兵庫 女性委員会

「2021春季生活闘争/政策制度・要求実現総決起集會」

アピール④（青年委員会）

青年委員会アピール（案）

連合兵庫2021春季生活闘争が開始し、本集会において、賃上げ・働き方の改善をはじめとする、「みんなの春闘」の決意を改めて確認し、あわせて、社会全体の課題解決に向けて、私たち自身の役割を認識・共有して取り組んでいく決意も確認しました。

私たちの暮らしは、昨年から引き続き猛威を振るっている新型コロナウイルス感染拡大により、テレワークといった働き方の対応はもとより、各業種・業態においても大きな影響を受け深刻な状況にあります。

このような中で、青年層に求められていることはなにか、それは組合の一員として、働く者の一人として、すべての働く者のため、すべての働く仲間とともに連合の取り組みをより社会へ周知し、また、職場にも浸透させる潤滑的な役割なのではないでしょうか。

青年ならではの発想力や活気ある行動力を、組合活動の活性化に活し、コロナ禍であるからこそより職場の働き方への柔軟な対応や、職場の環境改善・エンゲージメント向上につながることにもしっかりと声を上げ、より安心して働ける職場となるよう、青年層としても取り組んでいかなければなりません。

今こそ、「誰もが希望を持てる社会を実現！安心・安全に働ける環境整備と『底上げ』『底支え』『格差是正』で」をスローガンに、すべての職場、地域で、それぞれに最大限を尽くし、「みんなの春闘」に果敢に挑戦し声を上げよう。

2021年3月6日

連合兵庫 青年委員会

「2021 春季生活闘争/政策制度・要求実現総決起集会」